

【第1回名蓋川復旧対策検討会 実施内容】

日時 令和4年9月13日（火）午前10時から正午

場所 自治会館203会議室

【議事概要】

(1) 令和4年7月15日から16日の大雨

仙台管区气象台より今回の大雨についての説明

- ・4時間で7月の1ヶ月雨量の86%が集中。48時間では、7月1ヶ月の1.5倍。
- ・古川では、1976年からの統計開始以降、1時間から72時間間の全てにおいて、降雨量が通年の極地を更新。

(2) 一級河川鳴瀬川水系名蓋川の概要と被災状況について

(3) その他

【主な意見】

- ・被災のメカニズムの推定は概ねよいのではないかと。復旧工法検討に向けて、既往の成果の再整理と対策箇所への対策工の効果の再整理が必要である。
- ・合流先の多田川の背水の影響についても注目すべきである。
- ・越水箇所の越流水深を整理すること。今回の事象は浸透の影響も大きいのではないかと。
- ・越水した箇所について、堆積土砂や支障木の影響も考えられるので、整理したほうがよい。
- ・流域治水を考える上で、名蓋川だけでなく多田川圏域など全体を踏まえた視点が必要である。
- ・上流の加美町も参加できるような体制の検討が必要。
- ・流域治水型の災害復旧を行う場合は、住民説明ではなく協働というイメージを進めてほしい。
- ・河川だけでは対応できない雨ということを前提として、住民に理解してもらう必要がある。
- ・決壊箇所だけではなく、全川的に浸透・越水に対して、堤防を維持できるような対策を行う必要がある。
- ・名蓋川のような事案は全国で起こっている。今回の検討成果については、全国のよい手本として「宮城モデル」となれるよう取り組んでほしい。

【構成員】

東北大学大学院工学研究科教授 風間聡（専門：河川） ◎座長

宮城大学事業構想学群教授 郷古雅春（専門：農業）

国立研究開発法人土木研究所上席研究員 佐々木哲也（専門：土質）

東北大学災害科学国際研究所准教授 佐藤翔輔（専門：情報）【欠席】

東北大学高度教養教育・学生支援機構教養教育院総長特命教授 田中仁（専門：河川）【欠席】

国土交通省国土技術政策総合研究所河川研究室長 福島雅紀（専門：河川）

【オブザーバー】

気象庁仙台管区气象台気象防災部長 立原秀一

国土交通省東北地方整備局河川部長 板屋英治

大崎市副市長 尾松 智 【欠席】

宮城県農政部長 宮川耕一 【代理】

宮城県土木部長 千葉 衛